

8

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

Patent Registration
No. 2910516

(11)Publication number : 07-024085

(43)Date of publication of application : 27.01.1995

(51)Int.Cl.

A63B 37/00

(21)Application number : 05-193065

(71)Applicant : BRIDGESTONE SPORTS CO LTD

(22)Date of filing : 08.07.1993

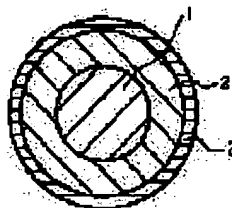
(72)Inventor : HIGUCHI HIROSHI
YAMAGISHI HISASHI
EGASHIRA YOSHINORI
YAMADA TADATOSHI

(54) THREE-PIECE SOLID GOLF BALL

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a solid golf ball with increased feel and controllability without deteriorating the good carry performance and the durability which are the distinctive features of a solid golf ball.

CONSTITUTION: Structured as a three-piece solid golf ball made up of a center core 1, an intermediate layer 2, and a cover 3 respectively formed to the following specifications; the center core 1 is to have a diameter of over 29mm and a sp.gr. of less than 1.4, the intermediate layer is to have a thickness of over 1mm, a sp.gr. of less than 1.2, and a JIS-C hardness of over 85, and the cover 3 is to have a thickness of between 1 to 3mm.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

10.07.1995

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

2910516

[Date of registration]

09.04.1999

[Number of appeal against examiner's decision of

Registration Number
← 2910516

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

第2910516号

(45)発行日 平成11年(1999) 6月23日

(24)登録日 平成11年(1999) 4月9日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 6 3 B 37/04
37/00

A 6 3 B 37/04
37/00

L

請求項の数4(全 7 頁)

(21)出願番号 特願平5-193065
(22)出願日 平成5年(1993) 7月8日
(65)公開番号 特開平7-24085
(43)公開日 平成7年(1995) 1月27日
審査請求日 平成7年(1995) 7月10日

(73)特許権者 592014104
ブリヂストンスポーツ株式会社
東京都品川区南大井6丁目22番7号
(72)発明者 樋口 博士
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町150-7
(72)発明者 山岸 久
神奈川県横浜市戸塚区戸塚町1274-9
(72)発明者 江頭 嘉則
埼玉県日高市武蔵台7-6-6
(72)発明者 山田 忠利
東京都三鷹市中原4-28-5
(74)代理人 弁理士 小島 隆司

審査官 塩崎 進

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 スリーピースソリッドゴルフボール

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 センターコアと、中間層と、カバーとからなるスリーピースソリッドゴルフボールにおいて、センターコアが直径2.9mm以上、比重1.05以上1.4未満、中間層が厚さ1mm以上、比重0.9以上1.2未満、JIS-C硬度85以上、カバーが厚さ1~3mmであると共に、上記中間層の硬度がセンターコア及びカバーの硬度よりも高く、該中間層の比重がセンターコアの比重よりも小さいことを特徴とするスリーピースソリッドゴルフボール。

【請求項2】 中間層が高反発性アイオノマー樹脂を主材として形成された請求項1記載のスリーピースソリッドゴルフボール。

【請求項3】 センターコアの表面硬度がJIS-C硬

度45~80で、カバーの硬度がJIS-C硬度50~85である請求項1又は2記載のスリーピースソリッドゴルフボール。

【請求項4】 センターコアがポリブタジエンを主材とするゴム組成物からなる請求項1乃至3のいずれか1項記載のスリーピースソリッドゴルフボール。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、センターコアと、中間層と、カバーとからなるスリーピースソリッドゴルフボールに関し、更に詳述すると、打撃時のフィーリング、コントロール性、及び耐久性に優れたスリーピースソリッドゴルフボールに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、一般的に用いられているゴルフボ

ールには、糸巻きゴルフボールとソリッドゴルフボールとがあり、近年ソリッドゴルフボールが主流となりつつあるが、その中でもコアとこれを被覆するカバーとからなるツーピースソリッドゴルフボールが広く普及している。

【0003】ツーピースソリッドゴルフボールは、飛距離及び耐久性に優れていることから多くのゴルファーに使用されているが、その反面糸巻きゴルフボールに比べて打撃時の打感が硬く、球離れの速さからフィーリング、コントロール性に劣るという欠点がある。このため、フィーリング、コントロール性を重視するプロゴルファーや上級ゴルファーは糸巻きゴルフボール、特に軟らかいバタカバーを用いた糸巻きゴルフボールを用いる場合が多い。しかし、糸巻きゴルフボールは飛距離及び耐久性の点でツーピースソリッドゴルフボールに劣るものである。

【0004】このように、ツーピースソリッドゴルフボールと糸巻きゴルフボールとは、互いに相反する性能を有しており、プレーヤーは自分の技術や好みにより使用するゴルフボールを選択しているのが現状である。

【0005】現在、ソリッドゴルフボールにおいて、糸巻きゴルフボールに近いフィーリングを実現するため、軟らかいタイプのツーピースソリッドゴルフボールが提案されている。このような軟らかいタイプのツーピースソリッドゴルフボールを得るためには、軟らかいコアを用いることになるが、コアを軟らかくすると、反発性が低下して飛び性能が劣化すると共に、耐久性も著しく低下し、ツーピースソリッドゴルフボールの特徴である優れた飛び性能及び耐久性が得られないばかりでなく、実際の使用に耐え難くなってしまう場合もある。

【0006】また、コントロール性はドライバーなどのフルショット時にも必要とされるが、アプローチショットなどのコントロールショットにおいて特に重要になる。例えば、バンカー越えでグリーンエッジからカップまでの距離が短い場合などは、プロ、アマチュアをとわず、ランの少ないボールを打ちたいと思うのは当然のことであり、このようなゴルフボールのコントロール性は、スピン特性に大きく依存すると考えられる。

【0007】この場合、比較的肉角の大きいクラブでフルショットした場合は、ボールそのものよりもクラブ肉角の効果が大きく、おおよそほとんどのボールにスピンが利き、転がり過ぎることはほとんどない。しかし、30ヤード、50ヤードといった短い距離のアプローチショットを行う場合にはボールによって転がり、即ちコントロール性に大きな差が生じる。この差を生じる大きな要因は、基本的な構造によるところは少なく、カバー素材によるところが大きいと考えられる。しかしながら、ツーピースソリッドゴルフボールにおいて、このようなコントロール性を向上させるため、カバーを軟らかい素材で構成すると、飛距離が低下してしまう。

【0008】本発明は、上記事情に鑑みなされたもので、ソリッドゴルフボールの特徴である良好な飛び性能及び耐久性を劣化させることなく、フィーリング及びコントロール性を向上させ、トータルバランスに優れたソリッドゴルフボールを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段及び作用】本発明者は、上記目的を達成するため鋭意検討を行った結果、ボールの中心となるセンターコアとボール最外層のカバーとの間に硬度がこれらセンターコア及びカバーの硬度よりも高い中間層を設け、更にこれらセンターコア、中間層及びカバーの厚さ、比重を特定範囲に設定することにより、フィーリング及びコントロール性を向上させるためにセンターコア及びカバーを比較的軟らかく形成しても、飛び性能及び耐久性を劣化させることがなく、良好にフィーリング及びコントロール性の向上を図ることができることを見出した。

【0010】即ち、直径29mm以上、比重1.05以上1.4未満のセンターコアの外周に、厚さ1mm以上、比重0.9以上1.2未満、JIS-C硬度85以上の中間層を形成し、この中間層の外周を厚さ1~3mmのカバーで被覆すると共に、上記中間層の硬度を上記センターコア及びカバー硬度よりも高くし、かつ該中間層の比重をセンターコアの比重よりも小さく設定することにより、例えばセンターコアをJIS-C硬度45~80、カバーをJIS-C硬度50~85に軟らかく形成しても飛距離や耐久性を低下させることなく、フィーリング及びコントロール性を向上させることができ、またこの場合上記中間層を高反発性のアイオノマー樹脂を主成分とする樹脂を用いて形成することにより、飛距離や耐久性の低下を生じることなくより確実にフィーリング及びコントロール性を向上させ得ることを見出し、本発明を完成したものである。

【0011】従って、本発明は、センターコアと、中間層と、カバーとからなるスリーピースソリッドゴルフボールにおいて、センターコアが直径29mm以上、比重1.05以上1.4未満、中間層が厚さ1mm以上、比重0.9以上1.2未満、JIS-C硬度85以上、カバーが厚さ1~3mmであると共に、上記中間層の硬度がセンターコア及びカバーの硬度よりも高く、該中間層の比重がセンターコアの比重よりも小さいことを特徴とするスリーピースソリッドゴルフボールを提供する。また、好適な実施態様として、中間層が高反発性アイオノマー樹脂を主材として形成された上記スリーピースソリッドゴルフボールを提供する。

【0012】以下、本発明につき更に詳しく説明する。本発明のスリーピースソリッドゴルフボールは、図1に示すように、ボールの中心となるセンターコア1とボール最外層のカバー3との間に、硬度が上記センターコア及びカバーより高い中間層2を設けると共に、これらセ

ンターコア1、中間層2及びカバー3の厚さ、比重を特定範囲に設定したものである。

【0013】上記センターコア1は、直径2.9mm以上、好ましくは2.9～3.7mm、比重1.05以上1.4未満、好ましくは1.05～1.38に形成する。直径が2.9mm未満であると、相対的に中間層が厚くなりすぎ、反発性及びフィーリングが低下し、また比重が1.4以上であると、ボール重量が大きくなり過ぎ、ゴルフボールとしての重量規定に適合したボールを構成することが困難になる。

【0014】ここで、ドライバー打撃時のように変形量の大きなインパクトにおいて、プレーヤーが感じるフィーリングは、このセンターコア1の硬度に大きく依存し、この場合フィーリングはプレーヤーのクラブのヘッドスピードによって変化するものである。従って、このセンターコア1の硬度は対象プレーヤーのヘッドスピードに応じて設定されるべきもので、後述する中間層の硬度より小さければよく、一般的にはJIS-C硬度で45～80（センターコア表面）、特に60～80の範囲とすることが好ましい。

【0015】このセンターコア1は、基材ゴムに共架橋剤、過酸化物を配合した公知のゴム組成物を加熱・加圧・成型して形成することができる。

【0016】この場合、基材ゴムとしては、従来からソリッドゴルフボールに用いられているポリブタジエンゴム或いはポリブタジエンゴムとポリイソプレンゴムとの混合物などを使用することができるが、本発明においては、高反発性を得るためにシス構造を90%以上有する1,4-ポリブタジエンゴムを用いることが好ましい。

【0017】共架橋剤としては、従来ソリッドゴルフボールには、メタクリル酸、アクリル酸等の不飽和脂肪酸の亜鉛塩、マグネシウム塩やトリメチルプロパントリメタクリレート等のエステル化合物が使用されており、本発明においてもこれらを使用することができるが、反発性の高さからアクリル酸亜鉛が好適に使用し得る。これら共架橋剤の配合量は、上記基材ゴム100重量部に対し15～30重量部とすることが好ましい。

【0018】過酸化物としては、種々選定し得るが、ジクミルパーオキシド或いはジクミルパーオキシドと1,1-ビス（t-ブチルパーオキシ）3,3,5-トリメチルシクロヘキサンの混合物が好適である。その配合量は、基材ゴム100重量部に対し0.5～1重量部とすることが好ましい。

【0019】なお、上記ゴム組成物には、更に必要に応じて、比重調整に酸化亜鉛や硫酸バリウムなどを配合し得るほか、老化防止剤を配合することができる。

【0020】上記中間層2は、厚さ1mm以上、好ましくは1.5～3.5mm、比重0.9以上1.2未満、好ましくは0.9～1で上記センターコア1の比重より小さく、JIS-C硬度85以上、好ましくは85～1

00にし、センターコア及びカバーの硬度より高く形成する。厚さが1mm未満であると反発性が低下して飛距離の低下を招くことになり、また比重が1.2以上であると、相対的にセンターコアの比重を小さくしなければならず、この場合ゴルフボールの慣性モーメントが大きくなってスピン特性が低下し、コントロール性を劣化させることになり、また比重がセンターコアの比重よりも大きい場合も同様である。更に、JIS-C硬度が85未満であると飛び性能の低下を招く。なお、上記センターコア1に中間層2を形成した時の直径は、特に制限されるものではないが、3.8～4.1mmとすることが好ましい。また、この中間層2と上記センターコア1との比重差は、特に制限されるものではないが、0.1以上、特に0.1～0.5とすることが好ましい。

【0021】この中間層2は、軟らかく形成したセンターコア1の反発性の低下を補うためのもので、上述したようにセンターコア1及びカバー3の硬度よりも高く、かつ反発性に優れた材質で形成され、具体的には、ハイミラン1706、同1605（三井・デュボンポリケミカル社製）、サーリン（デュボン社製）等のアイオノマー樹脂などが挙げられ、これらの中でも特にハイミラン1706とハイミラン1605との1:1ブレンド物が好ましく用いられる。なお、この中間層2には、上記アイオノマー樹脂に加えて重量調節剤として酸化亜鉛、硫酸バリウム等の無機充填剤や着色のために二酸化チタン等の添加剤を添加することができる。

【0022】上記カバー3は、厚さ1～3mm、好ましくは1.5～2.5mmに形成される。この場合、カバー3の厚さが3mmを超えると反発性が低下し、一方1mm未満であると、耐カット性等の耐久性が低下する。また、このカバー3の硬度は、上記中間層の硬度より低ければ特に制限されるものではないが、通常JIS-C硬度で50～85、特に60～85に設定することが好ましく、これにより反発性（飛び性能）、耐久性及びコントロール性のすべてを効果的に向上させることができる。

【0023】このカバー3は、ソリッドゴルフボールのカバー材として通常使用されるものを使用することができ、特に比較的軟らかく（JIS-C硬度50～85）かつ高反発性を有するものが好適に用いられる。具体的には、ハイミラン1650（三井・デュボンポリケミカル社製）、サーリン8120（デュボン社製）等のアイオノマー樹脂、又はこれらの混合物、ハイトレル4047（東レ・デュボン社製）等のポリエステル系熱可塑性エラストマー、パラタ樹脂などが好適に使用される。なお、必要に応じて上記樹脂に着色等のため無機充填剤を添加してカバー3を形成することができる。

【0024】

【実施例】以下、実施例、比較例を示して本発明を具体的に説明するが、本発明は下記実施例に制限されるもの

ではない。

【実施例, 比較例】

表1に示した組成でセンターコア、中間層、及びカバーを形成し、表2に示した性状のスリーピースソリッドゴルフボール（実施例1～6、比較例1, 2）を製造した。

【0025】この場合、センターコアは各成分を混練ロールを用いて混練し、155℃で15分間加圧成形することにより形成し、また中間層は射出成形により、センターコアの外周を被って形成した。そして、この中間層の外周に射出成形によってカバーを形成し、スリーピースソリッドゴルフボールとした。

【0026】得られた各ゴルフボールにつき、下記方法によりスピン特性、フィーリング、飛び性能、耐久性を評価した。結果を表2に示す。

スピン特性

ツルテンパー社製スイングロボットを用い、ドライバーでヘッドスピード45m/s（表ではW1、HS45と略記）及びサンドウェッジでヘッドスピード17.6m/s（表ではSW., HS17.6と略記）で打撃し、サイエンスアイ（ブリヂストン社製）でスピンを観測した。

フィーリング

プロゴルファーにより打撃時の感触を下記基準で評価した。

良好：○

普通：△

劣る：×

飛び性能

上記スピン特性及びフィーリングを評価する際、打撃したボールの飛距離を測定し、下記基準に従って総合的に評価した。

優る：○

普通：△

劣る：×

耐久性

フライホイール打撃M/Cを用い、ヘッドスピード38m/sで繰返し打撃して、ボールが破壊するまでの打撃回数の多少により評価した。

良好：○

普通：△

劣る：×

【0027】

【表1】

		実 施 例						比 較 例	
		1	2	3	4	5	6	1	2
セ ン タ ー コ ア	シスー1,4 ーポリブタ ジエン	100	100	100	100	100	100	100	100
	アクリル 酸亜鉛	20	20	20	30	20	20	20	20
	酸化亜鉛	56	36	36	20	23	10	90	55
	老化防止剤	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	ジクミル パーオキサ イド	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
中 間 層	ハイミラン 1706	50	50	50	50	50	50	50	50
	ハイミラン 1605	50	50	50	50	50	50	50	50
カ バ ー	ハイミラン 1650	50	50	50			50	50	50
	サーリン 8120	50	50	50			50	50	50
	ハイトレル 4047				100				
	トランスイ ソブレンゴ ム					90			
	天然ゴム					10			

*：配合量はすべて重量部であり、その量比はセンターコア、中間層、カバーでそれぞれ独立したものである。

		実 施 例						比 較 例	
		1	2	3	4	5	6	1	2
セ ン タ ー コ ア	外 径 (mm)	31.52	35.28	35.28	35.28	35.29	36.40	27.68	31.52
	硬 度 (JIS - C)	66	66	66	79	66	66	66	66
	比 重	1.36	1.24	1.24	1.19	1.16	1.07	1.56	1.35
中 間 層	厚 さ (mm)	3.4	1.7	2.2	2.2	1.7	2.0	5.7	1.6
	硬 度 (JIS - C)	91	91	91	91	91	91	91	91
	比 重	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95	0.95
	外 径 (mm)	38.35	38.73	39.65	39.66	38.73	40.40	39.00	34.56
カ バ ー	厚 さ (mm)	2.2	2.0	1.5	1.5	2.0	1.8	1.8	4.0
	比 重	0.97	0.97	0.97	1.10	1.13	0.97	0.97	0.97
	硬 度 (JIS - C)	82	82	82	61	78	82	82	82
製 品	外 径 (mm)	42.68	42.67	42.67	42.70	42.70	44.00	42.65	42.65
	重 量 (g)	45.50	45.45	45.50	45.55	45.53	45.60	45.50	45.50
性 能	スピ ン 特 性 (rpm)	W1. HS45	3300	3020	3030	3920	3600	3030	3500
		SW. HS17.6	3900	4000	4300	6390	5800	4100	3500
	フィー リ ン グ	△	○	○	△	○	○	×	○
	飛 び 性 能	○	○	○	○	△	○	×	×
	耐 久 性	○	○	○	○	○	○	○	○

【0029】表2の結果から明らかなように、本発明のスリーピースソリッドゴルフボールは、良好なフィーリング及びコントロール性（スピン特性）が得られるようにセンターコア及びカバーを軟らかく形成しても、飛び性能や耐久性を劣化させることなく、バランスの優れたゴルフボールを得ることができることが確認された。

【0030】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のスリーピースソリッドゴルフボールによれば、フィーリング及びコントロール性を向上させるためにセンターコア及びカ

バーを比較的軟らかく形成しても、飛び性能及び耐久性を劣化させることなく、トータルバランスに優れたゴルフボールを構成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明スリーピースソリッドゴルフボールの一例を示す概略断面である。

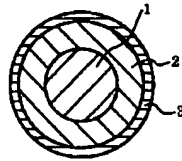
【符号の説明】

- 1 センターコア
- 2 中間層
- 3 カバー

(7)

特許2910516号

【図1】



フロントページの続き

(56) 参考文献 特開 平2-228978 (JP, A)
特開 昭61-168374 (JP, A)
実開 昭59-169865 (JP, U)
特公 昭63-61029 (JP, B2)

(58) 調査した分野(Int. Cl.⁶, DB名)
A63B 37/00